

林田太郎・リーグ戦の記憶／BOX

2017.3.13 13:47

井上尚弥と井岡一翔に勝利したボクサー、林田太郎。アマチュア時代、のちにプロボクシングで世界チャンピオンとなり大活躍する二人に勝利したボクサーは、大学卒業とともに静かにグローブを吊るした。今、駒澤大学ボクシング部のコーチとして後輩の指導にあたっている。5月13日に開幕する第70回関東大学ボクシングリーグ戦を前に、林田太郎駒大ボクシング部コーチに話を聞いた。(岩崎仁)

ーボクシングを始めたきっかけは

中学校までは野球部。体格が大きくなければ活躍は難しいと思っていたところ、空手をしていた父にボクシングを勧められ、市立習志野高校に進学しボクシング部に入部した。

ー駒澤大学に進学した理由は

高校生の時に駒大ボクシング部に遠征に行き、当時の熊本道之コーチや小山田裕二現監督にボクシングの指導をもらった。大学の雰囲気は自分に合っていた。高校三年生の時に駒大は関東大学二部リーグから一部リーグに昇格したため、私が一部リーグに昇格したばかりの駒大に進学することで、駒大ボクシング部を強くしたかった。

ーリーグ戦での思い出と当時のライバルたち

一番印象に残っているのは、私のボクサー人生の分岐点となった東洋大・片山聡一郎(磐城第二)戦。高校時代、階級が一緒でお互いを意識していたものの、試合をすることはなかった。一年生のリーグ戦で初めて対戦し、途中まではポイントを取られていたが、2ラウンド終了間際に軽いワン・ツーがクリーンヒットした。3ラウンドは2ラウンドに当たったワン・ツーを意識して戦い、KOすることができた。試合中に戦い方を修正して勝利したことが自信となった。

ポイントゲッターとして期待されていた三年生の時に、日大の柏崎刀翔(大聖寺実)に敗れ、チームに迷惑をかけた。拓大の嶋田亨(日章学園)も良きライバルだったこともあり、今でも会う仲だ。

ー井上尚弥と井岡一翔との戦いについて

井上選手との対戦成績は1勝2敗。全日本選手権の決勝戦が初対戦。井上選手のオープニングブローは左アッパーで、ブロックの上からでも伝わるパンチ力に脅威を感じた。当時の井上選手は高校生ということもあり、体も小さく、接近戦で頭をつけ合ったときのプレッシャーもあまりなく、逆に私がプレッシャーをかけ続ければ井上選手の上体が浮き、インファイトで戦えたため勝利することができた。パンチ力、ボクシングセンスは戦ったボクサーの中でもピカ一だった。

井岡選手との対戦成績も1勝2敗。敗れたものの、リーグ戦デビューの対戦相手が井岡選手だった。大学に入学し、リーグ戦初戦までの間に井岡選手が在学していた東農大に出稽古に行き、井岡選手とスパーリングをした。まさかデビュー戦で対戦するとは思わなかった。東農大の山本浩二監督から、井岡選手相手に良いスパーリングをして褒めてもらったことも覚えている。井岡選手はアマチュア時代から堅実で穴のないボクサーだった。特に手数が多く、バランスが良かった。井岡選手は私の一学年上で、私が高校時代にリーグ戦を観戦した時の印象は、相手を追いかけまわし、手数が多いボクサー。大学二年生あたりから距離をとってのアウトボクシングが増えていた。私が全日本選手権で勝利した時期は、ちょうど井岡選手がアウトボクシングかインファイトかで悩んでいたから勝利できたのではないかな。

ー井上選手と井岡選手のプロでの活躍をどう思っているか

一緒に切磋琢磨したライバルがスターとなって活躍していることを誇りに思う。私が取材対象となっているのも、彼らの活躍のおかげであり、とても感謝している。

—大学卒業とともに現役引退したが、後悔はないか

大きなけがもなく引退し、引退後もボクシングに携わり生活できている。高校では国体でしか優勝できなかったが、大学では多くのタイトルを手にすることができた。

実家は自営業で父が多くの苦勞をしていたため、私はハングリーな家庭に育った。私は駒大に高校ボクシングの実績で入学し、卒業した。三つ年下の弟、翔太は高校時代、インターハイ一回戦負けにもかかわらず、兄である私の大学ボクシングの実績が評価され、ボクシングで駒大に入学することができた。弟の翔太が大学で全日本チャンピオンになり、弟の大学での活躍が私のコーチとしての実績として評価され、当時、別の企業に勤めていた私を、駒大が職員として迎え入れてくれた。翔太も卒業後、大学ボクシングの実績で和歌山国体に和歌山県庁所属として出場、そのまま県庁職員として働いている。結果的に、私たち兄弟はボクシングがあったからこそ、今の人生があるといえる。駒大の後輩が頑張ってくれているので悔いもない。

リーグ戦に挑む学生には、大学の看板、OB、恩師、応援してくれる全て人たちの思いを背に頑張ってもらいたい。その思いを強く感じることで、実力以上の力を発揮できるだろう。ぜひ、リーグ戦から世界の舞台へも羽ばたいてもらいたい。

林田太郎(はやしだたろう)

1989年9月9日生まれ。千葉県浦安市出身。市立習志野高校卒業。2008年度、09年度、10年度全日本ライトフライ級チャンピオン。09年、10年、11年国体ライトフライ級優勝。世界選手権日本代表。高校時代も国体優勝。戦績95勝15敗。駒大卒で2012、14年度全日本フライ級チャンピオンで、アジア大会銅メダリストの林田翔太は弟

 Copyright (C) 2017 SANKEI DIGITAL INC. All rights reserved.